



森のなかま

2019年10月号

NO. 138 (継続283号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

県民との協働による森林づくり実行委員会、かながわトラストみどり財団他共催

第18回 やどりき水源林のつどい 開催

日時：令和元年8月3日(土) 10:00-15:00 晴
参加者：287名 トレッキング81名 水生生物観察133名 森林癒やし体験73名
インストラクター 8/2準備32名 8/3当日74名
神奈川県・財団のスタッフ 約50名

＜森本 正信 5期 写真提供 松本11期 星野13期 竹内15期＞
令和最初の「水源林のつどい」が、水週間の第一土曜日に開催されました。今年も、原点回帰で内容の濃いイベントとなって良い会となりました。恒例の鉄板メニュー（葉巻笛・ロケットラワン）でお出迎え。午前中は、トレッキング・水生生物観察・森林癒やし体験で充実した体験ができました。



受け入れ・パネル説明



ロケットラワン



ラワンの種子



トレッキング Bコース・成長の森



水生生物観察



森林癒やし体験

午後の森林交流会では、各ブースとも盛況で、参加者の森林との触れあいや親しみ感が促進出来たようです。クラフトでは、どんぐりトトロ（通称）に加えて、「シュロバツタ」も新規投入しました。大人も楽しめるバージョンであり、新鮮さも発揮できました。



どんぐりクラフト



シュロバツタ



ヒノキチップ

式典の中では、定着型ボランティア団体への感謝状贈呈式もあり当会森林部会も顕彰されました。今後とも、集客面や企画面で工夫をして、おもてなしファーストでアテンドすることで、「かながわ水源の森林づくり運動」を広く発信・訴求させていきたいと思ひます。



水源涵養実験



丸太切り
コースター作り



焼印を押して完成



司会の上宮田さん



スイカ割り



祭りばやし



森林部会 滝澤さん
感謝状贈呈式

＜森林部会＞

竹林整備研修会

日時：2019年7月28日（日）9：30～14：45 晴

場所：二宮町一色 湘南二宮炭焼き会活動場所周辺の竹林

研修生：18名

参加者名簿

(注) 講；講師 ス；スタッフ

| No | 氏名 | 班 | No | 氏名 | 班 | 氏名 | 班 |
|----|-------|---|----|-------|---|-------|-----|
| 1 | 國分俊明③ | 1 | 10 | 江上徹⑬ | 2 | 小野幸広⑦ | 講 1 |
| 2 | 滝澤洋子⑤ | 2 | 11 | 古舘信生⑬ | 4 | 徳岡達郎⑪ | 講 2 |
| 3 | 水津敏⑨ | 3 | 12 | 伊東健二⑭ | 1 | 宮下啓一⑫ | 講 予 |
| 4 | 湯浅鉄男⑪ | 4 | 13 | 鈴木淳⑭ | 2 | 岩田典義⑭ | 講 3 |
| 5 | 佐藤裕昭⑪ | 1 | 14 | 谷雅典⑭ | 3 | 小松立史⑭ | 講 4 |
| 6 | 吉田郁夫⑪ | 2 | 15 | 石垣桃栄⑮ | 4 | 水上正昭⑬ | ス |
| 7 | 松本保⑪ | 3 | 16 | 大見文夫⑮ | 2 | 斎藤夏葉⑬ | ス |
| 8 | 真貝勝⑪ | 4 | 17 | 末原興一⑮ | 3 | | |
| 9 | 江頭淑子⑬ | 1 | 18 | 竹内明彦⑮ | 4 | | |

＜記 鈴木 淳 14期 写真提供 斎藤 夏葉 13期＞

台風予想が一転晴天となり予定通り森林部会主催の竹林整備研修が実施された。

まずオリエンテーションにて、「倒れた竹・枯れた竹等を選別し伐倒する。伐倒材は3mの長さに切り、端を揃え等高線上に並べる。集材は腰の高さまで等」、作業のやりかたを再確認した。その後4班に分かれ、放置竹林整備がとても大変であると体感しながら作業を実施した。同時に（トラスト財団所有の）竹チップパーの使用法の指導も実施された。

昼食を挟み、講師から竹の利用の今昔として、過去に鉄筋の代わりに竹筋コンクリートで作られた建築構造物があるという大変貴重な講話があった。さらに「湘南二宮炭焼き会」の活動概要、薪割り機、炭焼き窯、木酢水・竹酢水作成の説明と見学を実施した。

午後から竹の傾斜方向に電線や壁がある等のイレギュラー時の伐倒方法について、模範作業を全員で見学した。その後、周辺の竹林整備の出来栄を実際に見て触る体験ができた。

研修終了後の感想として、竹チップパーをもっと長く使いたかった。竹林整備の手順が再認識できた。安全作業のやり方を実践できた等の意見があった。

作業中にスズメバチに1名刺されてしまったが、迅速な対応により事なきを得た。また、ハチジェットでハチの巣に対して適切な対応ができたことや、当日最高気温が32℃の厳しい環境の中、研修終了時間を早めた判断も安全管理への配慮という点で大変勉強となりました。



荒れた竹林



伐ってきれいに並べます



整備された竹林



竹チップパー

森のめぐみ シリーズ

枠組は桜の小枝です

木造建築物を食い荒らすシロアリ、実はそのシロアリは決して悪さばかりをしているわけではありません。シロアリは森の枯木や落葉を食べて分解する森の掃除屋でもあるのです。シロアリがいるからこそ枯木などのバイオマスは森の中に山積されずに済んでいるのです。と言っても熱帯地域に生息するシロアリは強烈で、生きた立木までも食害してしまうのですが。



シロアリ

シロアリはアリと言ってもアリの仲間ではありません。アリは蜂の仲間では分類学の上からはハチ目に属しますが、シロアリはシロアリ目という別のグループに属し、むしろゴキブリに近いのです。アリはからだにくびれがありますがシロアリにはくびれが無いので見た目にはすぐに見分けがつかず、わが国に生息するシロアリは白い体をしているのでいかにも白い蟻、シロアリといった名前が似あっていますが、シロアリが白いのは土中や家屋の目に見えないような暗いところで生活しているのが原因だと言われています。日焼けしないで色白なのです。熱帯で立木などを食い荒らし野外で生活するシロアリには茶褐色や黒っぽいものもいるのです。

シロアリは乾燥を嫌いますので、湿気が放散しないように蟻道や蟻塚を作ります。蟻塚はシロアリの巣で、熱帯に行くと野原や林の中に高さ数十センチから高いものでは1メートルにおよぶ半円や塔の形をしたのが見られます。雨風にも負けないくらい頑丈で硬いのです。シロアリが木質系のセルロースなどの繊維質を食べた残りの排泄物すなわちリグニンや土と木く



蟻塚

第31回 シロアリ

実はバイオマス利用の先駆者

東京大学名誉教授 谷田貝 光克 氏

ずで作られていることを見れば硬いのはもっともだということがわかります。リグニンは木の主要成分セルロース、ヘミセルロースが木の骨格を作り、それをしっかりと支えるコンクリートの役目をするのがリグニンだからです。

蟻塚と外界を結ぶのが蟻道ですが、蟻道も蟻塚も陽の光を遮り、湿気の放散を防ぐのに役だっていると同時に外界よりも気温を低く保ち熱帯の暑さから身を守るのに役立っています。

シロアリは約3億年前に地球上に現れました。3億年前と言えば「石炭紀」と呼ばれる時代で、その頃は大きなシダが生い茂り、また、大森林が作られていた時代です。その頃の植物が堆積して石炭が作られています。シロアリはその頃から森林の中で枯木や落葉などを食べて分解して地に戻っていたのです。その分解物を他の動植物が再利用してきました。今でこそ再生可能な生物資源の有効利用が注目されて、余すところなく利用しようという機運が高まっていますが、シロアリはバイオマス利用の先駆者でもあったのです。

今でもシロアリの大部分は森林の中、特に熱帯地方の森林で生活していますが、いつの間にか人里に近づき、ヒトの作る木造建築物に害を与えるようになったのです。森林の中で生活していれば立木を枯らすことはあっても森の掃除屋としての役目をはたしていたシロアリですが、今や建物を食い荒らす悪者になってしまいました。

シロアリは世界におよそ2500種いると言われていますが、この数値はヒトが確認したシロアリの種類です。実際にはさらに多くの種がいると思われます。シロアリの生息域は主に気温と降水量によりますが、輸送機関の発達によって運ばれる木材に紛れ込んでその生息域を広げているようです。松くい虫の被害が南からしだいに北へと広がっていったのはカミキリムシやセンチウが入った松材を運んだからだとも言われていますが、シロアリの場合も似たようなことが起きているのかもしれませんが。

(イラスト 広報部 加藤 優美 ⑮)

活動短信

今回の掲載はR1年6月21日～8月28日分です。
寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

10月(旧暦九月)の二十四節気

寒露 10/8頃

冷たい露の結ぶころ
秋本番 紅葉も始まり、
稲刈りも終わるころ。

霜降 10/23頃

寒い地方では、霜が降り
始め、紅葉の本番を
迎える。

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
(できればWord、メール直筆でもOK。Excelはできるだけ
避けてください。改行等の処理に手間を要しますので)
写真もあれば1枚添付ください。

◆ 活動団体・活動名 等

日付(できれば時間と天気も)

場所(例:相模原市緑区 長竹承継分収林)

参加者 人数

県 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財(公財)かながわトラストみどり財団、看 看護師

スタッフ 例 小田原市森林組合XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

イ インストラクター(○数字:期) 研:研修枠

以下の本文を概ね400字前後を目安として執筆ください
リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェック
をお願いします。(執筆者もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。

◆ 横浜市立中和田小学校 ハイキング

日 6月21日(金) 10:30~15:30 曇り

場 富士山御殿場口新五合目周辺 幕岩・下双子山

参 139名(大人10名 子供・5年生 129名)

イ L内野⑨、井出①、辻村⑨、松石⑬

県外で対応する活動で、富士山御殿場口新五合目周辺(新五合目駐車場→幕岩→四辻→下双子山→新五合目駐車場)のハイキングの付き添いでした。5年生4クラス、各クラスをインストラクター1名で担当、「ハイキングの安全と富士山の自然や植物を教えてほしい」という学校側の要請でした。下見は、学校側は既に終えていて、インストラクターだけでした。初めての場所、植生・環境など異なる富士山5合目周辺を丁寧に確認しました。また、狭い山道で30名の生徒に話をそれぞれの伝える工夫があり、お互いに参考になりました。

活動は、学校側主導でおこなわれましたが、下見を参考に出発前の簡単な足のストレッチ、昼食を幕岩でとインストラクターが提案しました。昼食を幕岩にしたので12:30~13:00に昼食を摂ることができました。学校側の昼食予定だった下

双子山は、到着時間も遅く風が強くて寒かったです。

生徒は元気に富士山の自然を楽しんでいて、気づいたことや疑問に思ったことなど沢山の質問がありました。幸い天気にも恵まれて全員で下双子山の頂上に立ち、無事に終了しましたが、山の天気は変わり易いので半袖、半ズボンなどの服装面や、双子山下山後の火山砂礫を走り下りるなど安全面をもう少し配慮することが必要だと感じました。なお、下見・実施の両日、インストラクターの車に同乗し現地まで行きました。

(記 内野ミドリ⑨)

かながわしずくちゃん Facebook は下記URLで見ることができます。



<https://www.facebook.com/kanagawa.sizuku>

◆ 川崎市立ろう学校「水の中の生き物ウォッチング」

環境・エネルギー学校派遣事業～かながわ環境教室～

日 7月18日(木)13:00~15:10、曇り

場 川崎市立ろう学校

参 高校生2人、先生2人、職員(手話通訳)2人

イ L井出①、堀江④、星野⑬、石垣⑮

学校にある池を観察します。亀と小さな魚がいます。

網で池の底、壁面をなでるように掬います。生徒さんのワクワク感が伝わってきます。

下見の時より、魚の数が増えています。プランクトンが増えているそうです。微細な生物を取るお手製の網も使います。

実験室に戻りました。目に見える大きさの生き物は見当たりません。顕微鏡を覗くと…いました。丸いの、長いの、早いの、ゆっくりなもの。ワムシ、ゾウリムシなど。

まとめの時間、池の生き物のつながりを考察します。プランクトンを小さな魚が食べ、大きな魚がそれを食べます。亀は何を食べているの?ヤゴ?

インストラクターが持参した、目で分かる生き物も見ました。オタマジャクシ、カワニナ、アメンボ。大きくなったら何になる?これを食べる生き物は?…初めて名前を知った生き物もいたようです。

おまけの時間、身近なところで見られる'生き物がいた跡'の写真絵本を見ました。葉っぱの裏の塊、泡。関心が広がれば、幸いです。

あたたかい先生、職員方、大事なものを育てこられた生徒さんと唯一無二の時間となりました。(記 星野澄佳 ⑬)

◆ 神奈川県水道記念館 水源林保全体験

| | |
|---|-----------------------|
| 日 | 7月30日(火) 9:00~15:00 晴 |
| 場 | 県立21世紀の森 |
| 参 | 37名(大人:18名、子供:19名) |
| イ | L 西出⑫、高橋③、柏倉④、有坂⑧ 計4名 |

梅雨明け直後の猛暑の中、熱中症に注意しながら、午前には竹林整備、午後にはクラフト工作(マイ箸作り)を行いました。

9時に海老名駅近くの駐車場に集合して、参加者の皆さんと一緒にバスに同乗させて頂いて、21世紀の森に向かいました。開会式の後、ヘルメット、竹挽き鋸を身に付け、4班に分かれて作業現場に向かいました。こまめに休憩を取って水分補給をしながら竹林で除伐を行いました。約1時間の作業でしたが、整備されて明るくなった竹林を振り返って、皆さん、満足感に浸っておられました。

午後は室内でのクラフト工作で、現地の指導員の方の説明の後、マイ箸作りに挑戦しました。ヒノキの間伐材から作られた材料をかんなどで削って、ペーパーで仕上げ、最後に食用油を塗って完成です。「また来たい」と言うお子様もいて、皆さん、楽しい思い出とマイ箸をお土産に帰宅の途に着かれました。猛暑の中の作業でしたが、無事に終える事ができました。(記 西出 健一⑫)

◆ 藤沢市青少年ふれあいネットワーク活動

「青春の旅 森林ボランティア」竹林整備
(マダケ伐採)

| | |
|---|-----------------------|
| 日 | 8月10日(土) 9:30~14:30 晴 |
| 場 | 県立21世紀の森 |
| 参 | 27名(大人15名・小中学生12名) |
| イ | L 柏倉④ 高橋③ |

平成7年藤沢市明治地区に誕生したボランティア活動はその歩みを継続し、組織も確立して現在に至っています。この年は阪神淡路大震災による未曾有の被害状況に多くの人々が復旧活動に立ち上がり、「ボランティア元年」の言葉が生まれた年でもありました。

その時に生まれた奉仕活動の精神が受け継がれ、今回はマダケ林整備(マダケの伐採)に取り組みました。

立秋を過ぎましたが、酷暑の中2カ所のマダケ林(運動広場下、マダケ展示林)の伐採に約1時間余たっぷり汗を流しました。

昼食後、伐採したマダケ(さまざま太さ2cm~12cm)を使い工作に取り組み、小学生はカタツムリづくりや野菜でっぽうづくり、中学生は2

色笛や青竹踏みづくり等に夢中でした。大人の人たちも一輪挿しや竹笛製作等に熱中しました。

予定を無事終了。手作りの作品を胸にバスに乗り込む皆さんの顔は満ち足りていました。

(記 柏倉 紘④)



◆ 県民参加の森林づくり (下刈り)

| | |
|------|---|
| 日 | 8月18日(日) 8:30~15:30 晴 |
| 場 | 箱根町仙石原(イタリ水源林) |
| 参 | 67名(男50、女17) |
| 財 | 大木様、菊池様 |
| 看 | 小林様 |
| スタッフ | 箱根水道パートナーズ 東島所長様他3名 |
| イ | L 小野⑦ 齊藤⑧ 国分③ 山口⑪ 大原⑬ 石川⑫ 有坂⑧ 野村⑭ 大見⑮ 小野⑮ 小沢⑯ |

台風10号が通過した後で、夏の暑さが戻る中、小田原駅から5台のバスに分乗して、作業場所のイタリ水源林に向かいました。途中、箱根湿生花園でトイレ休憩し、作業場所近くの水道施設に到着した頃には、やや蒸し暑いながらも、高原の爽やかな天候を感じる事ができました。

箱根水道パートナーズ東島所長、財団大木様の挨拶と看護師小林様紹介の後、リーダーからインストラクターの紹介と注意事項の説明がありました。特に、熱中症にならないよう水分・休息を十分取りましようとのコメントがありました。簡単なストレッチ体操の後、参加者に大カマ等用具を配布して、67名が5班に分かれて、作業エリアに向かいました。

作業エリアは、針葉樹林を皆伐した後の植林地で、ヤマボウシ・イロハモミジ・ヤマザクラ・ヒメシャラが人の背丈ほど成長しており、誤伐の懸念は少なく、またほぼ平坦地で作業しやすい環境でした。ただ、猪の掘り起こしの激しい場所があること、蔓が植栽樹に絡んでいることから、足場の確保と、蔓切上の注意点(切るだけ、除去は不要)を参加者に伝えて、作業を開始しました。作業時間はほぼ1時間半、30分に一度は休憩を取って、水分補給して熱中症に備えました。

初参加の若手グループや親子連れが多く参加している班では、作業を楽しんでいるように感じました。12時前に作業を終了し、水道施設に戻り、道具の手入れと昼食を取りました。昼食後は班ごとのミーティングと水道施設の見学を実施し、施設管理者から箱根の水がいかにおいしいかをレクチャーして頂きました。この後、箱根高原

ホテルに移動して、温泉入浴を楽しんで、作業でかいた汗をさっぱり流すことができました。

小田原に戻り、解散後の反省会、事故もなく、大きな問題点もありませんでした。また初参加者のグループからは、又参加したいとの感想がありました。インストラクターからは、猪の掘り起こしにより傾いた植林樹を補修する縄が必要との意見がありました。また、安全担当のインストラクターからは、作業前、作業終了後の班別ミーティングをしっかりとやってほしいとの要望が出されました。今回の意見・要望を次回に生かすことを確認して散会しました。(記 山口 久基⑪)

◆ 水道記念館・やどりき水源林散策体験

日 8月22日(木)
場 やどりき水源林フィールド
参 28名(子供14名、保護者14名・12家族)
スタッフ 北村氏ほか5名、
看 小林様
イ L牧石⑭、高橋③、白畑⑦、草野⑧

朝からの空模様が怪しくなり、プログラムの実施が危ぶまれたので、午後予定の水生物観察を午前・後沢で実施することにしました。

バス到着後、4班に分かれ、インストラクターからの採集方法の説明や注意事項の徹底のあと、班ごとに後沢に移動し、採集を始めました。水遊びにも興じながらの採集となりましたが、各班それぞれ、カゲロウ、カワゲラ、トビゲラ、ガガンボ、ヤゴ、沢ガニなどを採集。ヘビトンボを手づかみで網に入れる強者の子供さんもいて、楽しい観察会になりました。



午後は、天候回復見込みあり、予定通り林道コースなど水源林内を班ごとに散策開始。白畑インストラクターの「豊かな森からの水の流れ」の布製垂れ幕を見ながらの水源涵養の説明。アオギリ・イロハモミジの種散布の仕組み、クロモジなどの香りやミツマタの紙のお話、ムササビ樹洞を見ながら、やどりきに生息している生き物たちのお話などに耳を傾けながらの散策になりました。

また、枕状溶岩を見ながらの丹沢山塊の成り立ちの話にも興味を抱いた子供もいて、夏休み一番の収穫になった森林散策のようでした。

天候にも恵まれ、けが人もなく無事に活動を終えることができたのは保護者のほか、北村氏をはじめスタッフのご協力の賜物と感謝します。

(記 草野 弘⑧)

◆ 県民参加の森づくり(下刈り)

日 8月28日(水) 7:50~13:30 雨
場 秦野市寺山
参 39名(大人)
市 秦野市環境共生課 腰塚様
財 大木様、内田様 **看** 小林様
スタッフ 神奈川県森林組合連合会様
イ L古舘⑬、稲辺⑤、高橋⑨、鈴木⑦、渡辺⑫、鈴木⑭、角石⑮

参加者が JR 秦野駅南口に集まり始めた頃から小雨が降りだし、8:40分過ぎにバスは菩提峠の駐車場にむけて出発しました。途中、霧が発生し、視界が悪い箇所もありましたが、ヤビツ峠でトイレ休憩に寄った時には、雨が本降りとなりました。この雨の中で、今年度最後となる「下刈り」が開催されました。

オリエンテーションでは、活動の諸注意、インストラクター紹介、準備体操を行い、班毎に下刈りカマとヘルメットを受取り、作業現場へ移動しました。作業現場へは、緩やかな斜面を登り、そこから急な下り坂を下る必要があり、足元が滑りやすいので前の人と十分、間隔を空けて、ゆっくり歩くように呼び掛けました。

活動場所は高さ2m程の鹿柵に囲われており、脚立を登り降りする必要があるため、脚立の登り降りに不安のある参加者には、ハイキング通路の草刈りを行ってもらいました。柵内の下刈りは、所々に切り株がありましたが、比較的平らな場所で、作業しやすい環境でした。



作業を終え、鹿柵の外へ出ると足元や作業服にヤマビルが付いていて、腕や首筋をかまれた方もいました。昼食と反省会は雨天のためバス車内で行い、13:30頃に全員無事に JR 秦野駅南口に戻って来ました。(記 角石 正明⑮)



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。
 全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

やどりき水源林ミニガイド

9 月のトピックス



ミヤマアカネ

神奈川県では準絶滅危惧種です。
穏やかな流れの緑の石や植物に
卵を産みます。

やどりき水源林では、いろいろな昆虫が
待っています。

「水源林ニュース」をご覧ください

<http://www.forest-kanagawa.jp/4field.html#field02>

森の案内人情報

案内人も張り切ってお待ちしています。

- 実施時間: 毎週土曜・日曜・AM10 時・PM1 時, 1~2 時間程度
- 集 合: 水源林入口ゲート前
- 内 容: 森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ手入れなどについて説明致します。参加自由、参加費無料
- *10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

- 問合せ:
(公財)かながわトラス
みどり財団
TEL: 045-412-2255
FAX: 045-412-2300
- ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>
E-mail: midori@ktm.or.jp

- やどりき水源林までの道順
小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約 25 分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩 35~40 分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

黒川 敏史
Mail: kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp
Tel: 080-5477-2206

<電子配信会員向け担当> 笠原
Mail: happy_kumakuma711@icloud.com

<電子配信企業等パートナー様向け担当>
柳澤 Mail: cherril@gk9.so-net.ne.jp

<メール・手書き原稿送り先>
【本誌】黒川 敏史
Fax: 0467-46-8650
電話連絡先: 080-5477-2206
Mail: kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊】阿藤 寿孝
Tel: 045-433-4413
Mail: hisa-ato2@22.netyou.jp

原稿は随時受け付けています。

森のなかまは過去号もご覧になれます。
(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>
(HP 担当: 井出恒夫)

イベント情報 & ご案内

山北町観光協会 HP より

編集後記

★ 甚大な被害を残した台風 15 号。経験したことのない風の強さが怖かったです。台風の過ぎた後、見慣れた大きなシュロの木が無残にも根元から折れていました。地球温暖化の文字が頭をよぎります。(笠原)

★9 月も終わるといのに暑い日が続きます。異常気象。風水害の増加。地球温暖化。また、人間界では、紛争や迫害など次々と続きます。次世代の子供達の住む世界を心配します。

「杞憂」と言いますが、杞憂であってほしいです。(吉田)

★皆様、台風 15 号の被害は大丈夫でしたか?いつも手入りを頼まれてる鶴見区宗泉寺さんでは大きなヒノキが折れてしまいました。南側に倒れてたので北風が強かったんですね!!(阿藤)

★恐ろしいくらい風の強い台風でした。昨年は 24,25 号と吹き荒れ大きな木が倒れました。やどりき、愛川の高取山では 80 年くらいの物の木が、今年には更に影響が受けにくい 20 年くらいの物の木が千葉の災害報道に隠れてしまっていますが。これも人間の欲望が作りだした地球温暖化のせいでしょうか。(松本)

★W 杯が始まってラグビー漬けです。日本がどこまで勝てるか、はもちろん、世界の名選手の素晴らしいプレーに目が離せません。ボーッととして木から落ちないようにしなくては。(竹内)

★鎌倉では、林の木は伐るなという声が強くて木が巨大化しています。また岩盤の上の土壌が薄いこともあって、市内各所で台風による倒木が相次ぎました。(黒川)

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで 2000 円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から 12 回 / 1 年間お届け致します。

編集人: 黒川 敏史

広報部: 吉田郁夫 松本 保

笠原かずみ 加藤優美、阿藤壽孝、竹内明彦、柳澤千恵美

支援: 伊藤恭造 大原正志 江頭淑子